

乱数 2010 2013 2016 2019 365 数学/三角 ランダム・ビトウィーン シーケンス

# **RANDBETWEEN**

# 整数の乱数を生成する

#### 書 式 RANDBETWEEN(最小值,最大值)

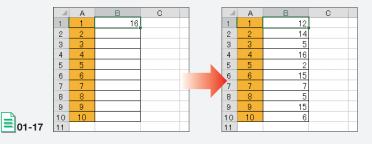
# 計算例 RANDBETWEEN(1,10)

[1]以上[10]以下の乱数(任意の整数)を返す。

機 能 RAND関数は「実数の乱数 | を生成します。それに対して、 RANDBETWEEN関数は[最小値]と[最大値]の範囲で一様 に分布する「整数の乱数 | を生成します。

> RANDBETWEEN関数を使用すると、下図のように、ワー クシートの再計算のたびに新しい乱数を発生します。

F9を押すと、新しい関数が生成されます。



#### 使用例

■ 01-18

下表では、ランダムな日付をデータとして抽出します。[最小値]と[最 大値」に日付の期間を指定します。なお、日付はシリアル値で表示され るため、日付形式に設定する必要があります。

_4	Α	В	С	D	Е	F	G
1	1	2020/8/30					
2	2	2020/8/28					
3	3	2020/8/17					
4	4	2020/8/13					
5	5	2020/8/16					
6	6	2020/8/6					
7	7	2020/8/6					
8	8	2020/8/22					
9	9	2020/8/27					
10	10	2020/8/28					
11							

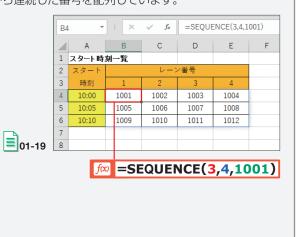
# 2010 2013 2016 2019 365 数学/三角 配列 **SEQUENCE** 連続した数値の入った配列(表)を作成する 書 式 SEQUENCE(行 [, 列] [, 開始] [, 目盛り]) 計算例 SEQUENCE(スタート時刻,レーン数,ナンバーカード) 複数の「スタート時刻」と「レーン数」の表に、「ナンバーカー ド]で指定した番号を連続で配列する。 能 SEQUENCE関数は、指定した範囲に連続した数値(連番)の 一覧表を作成します。[目盛り]には、連続した数値の増分量 を指定することができます。つまり、1、2、3…の連番が、「目 盛り] に[2] を指定すると、1、3、5…のように2増の数値 を入れることができます。 [列] [開始] [目盛り] を省略すると、それぞれの値は「1」と なります。 下表では、陸上のトラック競技で3つのスタート時刻と4つのレーンの

#### 使用例 スタート時刻とレーンに対応する選手のゼッケン番号を配列する

表に、選手のゼッケン番号(ナンバーカード)を指定します。 この例では、セル範囲 [B4: E6] において、セル [B4] にゼッケン番 号の「1001 から連続した番号を配列しています。

MUNIT ..... P.36

**RANDARRAY** ..... P.40



#### マックス

統計 MAX

## 数値の最大値を求める

書 式 MAX(数值 1[, 数值 2,…])

最大/最小

[数値1] [数値2] …の最大値を返す。

機能 MAX関数は、数値の最大値を求めます。このとき、引数ま たは引数として指定したセルに文字列あるいは論理値が含ま れている場合は無視します。

統計 マックス・エー 最大/最小

2010 2013 2016 2019 365

2010 2013 2016 2019 365

# **MAXA**

### データの最大値を求める

書 式 MAXA(値1[,値2,…])

[値1] [値2] …の文字列または論理値も含めた最大値を求め る。

機能 MAXA関数は、データの最大値を求めます。このとき、引数 または引数として指定したセルに、数値のほか文字列や論理 値が含まれていても、計算の対象に含みます。文字列と [FALSE] は [0]、[TRUE] は [1] として計算します。

#### 使用例 最大売上額を求める

下表では、上半期の売上一覧から各店舗の最大売上額をMAXA関数で 求めています。対象を「休業 | を含めた最大額が求められます。

B9	_	: ×	√ f <sub>x</sub>	=MAXA(E	32:B7)				
	А	В	С	D	Е	F	G	Н	
1		新宿店	台場店	町田店	横浜店	幕張店	売上合計		П
2	4月	77,220	71,490	55,910	改装休業	110,700	315,320		
3	5月	86,310	改装休業	123,330	82,800	126,250	418,690		
4	6月	142,590	102,450	改装休業	111,230	114,060	470,330		
5	7月	58,240	127,180	119,750	96,550	104,020	505,740		
6	8月	52,050	54,900	92,720	102,490	改装休業	302,160		
7	9月	改装休業	137,650	127,870	82,920	145,820	494,260		
8	上半期計	416,410	493,670	519,580	475,990	600,850	2,506,500		
9	最大売上額	142,590	137,650	127,870	111,230	145,820	505,740		
10									

# **MAXIFS**

マックス・イフス

# 条件を指定してデータの最大値を求める

最大/最小

書 式 MAXIFS(最大範囲,条件範囲1,条件1[,条件範囲2, 条件 2],…)

#### 計算例 MAXIFS(税込金額,商品名,検索商品名)

[商品名]のセル範囲にある [検索商品名]の商品に対応する [税込金額]の数値のうち、最も大きい数値を求めます。

機 能 MAXIFS関数は、指定した検索対象のセル範囲内から複数の 条件を指定して検索し、条件を満たす最大値を返します。最

大126の範囲と 条件のセットを 指定することが できます。 引数 「条件 」 に使 用できる比較演 算子は、表のと おりです。

02-07

演算子	演算名	使用例	結 果
=	等しい	"=2"	2 と同じ
<>	等しくない	"<>2"	2 以外
>	大きい	">2"	2より大きい
<	小さい	"<2"	2より小さい
>=	以上	">=2"	2 以上
<=	以下	"<=2"	2 以下

#### 指定した商品名の最大売上金額を求める

下表では、売上一覧から指定する商品の最大の売上額を求めています。 セル [H1] にセル範囲 [B2:B11] で検索する商品名を指定します。 セル範囲[E2:E1]]から商品名に合致するセルを検索して、その中 で最大の売上金額を表示します。

H2		: ×	√ f <sub>x</sub>	=MAXIF	=MAXIFS(E2:E11,B2:B11,H1)				
4	Α	В	С	D	Е	F	G	Н	
1	伝票番号	商品名	単価	数量	売上金額	Г	商品名	パソコン	
2	1001	パソコン	49,800	1	54,780		最高売上金額	109,560	
3	1002	プリンタ	24,800	3	81,840				
4	1003	デジカメ	39,800	1	43,780				
5	1004	プリンタ	24,800	2	54,560				
6	1005	パソコン	49,800	2	109,560				
7	1006	プリンタ	24,800	4	109,120				
8	1007	デジカメ	39,800	2	87,560				
9	1008	プリンタ	24,800	1	27,280				
10	1009	パソコン	49,800	1	54,780				
11	1010	プリンタ	24,800	1	27,280				
12									

 $f\infty$  =MAXIFS(E2:E11,B2:B11,H1)

48

02-06

#### ネットワーク・デイズ

# **NETWORKDAYS**

### 期間内の稼働日数を求める

#### 書 式 NETWORKDAYS(開始日,終了日[,休日])

# 計算例 NETWORKDAYS("2020/9/1","2020/12/1")

[2020/9/1]から[2020/12/1]までの稼働日数[66]日 を返す(ここでは土日のみ除外)。

2010 2013 2016 2019 365

能 NETWORKDAYS関数は、2つの日付をシリアル値または日 付文字列で指定し、その2つの日付の間の稼働日数を計算し ます。土日の休日のほかに、祝日や公休などを指定すること ができます。

#### 使用例 月ごとの営業日数を求める

下表では、月ごとの営業日数を計算しています。土日、土日と祝日、 土日と祝日と公休をそれぞれ除いた営業日数は、NETWORKDAYS関 数の引数「休日] に、「祝日のリスト | (P.121参照) に定義した名前(祝日、 祝日公休)を指定しています。

たとえば、セル [F3] には [=NETWORKDAYS (\$B3.\$C3.祝日公休) | と入力しています。

F3		• : ×	√ f <sub>x</sub>	=NE	TWOR	KDAYS	(\$B3,\$C3,₹	兄日公休)	
4	Α	В	С	D	Е	F	G	Н	1
1	月	開始日	終了日	1	営業日	数			
2	月開始日	Wet 3 III	休日	休日	休日祝				
3	1月	1月1日	1月31日	23	21	23			
4	2月	2月1日	2月29日	20	19	20			
5	3月	3月1日	3月31日	22	21	22			
6	4月	4月1日	4月30日	22	21	22			
7	5月	5月1日	5月31日	21	18	21			
8	6月	6月1日	6月30日	22	22	22			
9	7月	7月1日	7月31日	23	21	23			
10	8月	8月1日	8月31日	21	20	18			
11	9月	9月1日	9月30日	22	20	22			
12	10月	10月1日	10月31日	22	22	22			
13	11月	11月1日	11月30日	21	20	20			
14	12月	12月1日	12月31日	23	23	21			
15	合計			262	248	256			
16	最大値			23	23	23			
17									
18									

03-07

関連 WORKDAY ......P.121

ワークデイ・インターナショナル

日付/時刻

## **WORKDAY.INTL**

# 定休日を除く稼働日数後の日付を求める

書 式 WORKDAY.INTL(開始日,日数 [,週末] [,週末])

計算例 WORKDAY.INTL("2021/3/1",10,14)

毎週水曜日を定休日(「週末]の「14])に指定した場合の、 [2021/3/1] のシリアル値 [44256] から、稼働日数 [10] 日後]に当たる稼働日[2021/3/13]のシリアル値 [44268]を返す。

2010 2013 2016 2019 365

機 能 WORKDAY関数は十日が稼働日から除外されていましたが、 WORKDAY.INTL関数は、除外する曜日を[週末]で個別に 指定できます。[週末] は非稼働日を[1]、稼働日を[0] とし て7桁の数字で表すことができます。

> たとえば、[1000000]と指定すると、月曜日が週末にな ります。これにより、土日は営業、平日に定休日というパター ンの稼働日数後の日付を求めることができます。

[週末]に指定する番号は、下表に示します。

番号	曜日	番号	曜日
1 (省略)	土、日	11	日
2	日、月	12	月
3	月、火	13	火
4	火、水	14	水
5	水、木	15	木
6	木、金	16	金
7	金、土	17	土

WORKDAY ...... P.121

#### MEMO |開始日のセル指定

EDATE関数 (P.120参照) などで、 すでに日付が入力されている表な どを利用して、月数後の日付を求 めたという場合は、「開始日] に基 準となるセル値を指定すれば同様 に求めることができます。



#### 借入返済

## RATE

# 元利均等返済における利率を求める

書 式 RATE(期間,定期支払額,現在価値[,将来価値][,

支払期日][,推定値])

計算例 RATE(12,85000,-1000000)

100万円を貸し付け、毎月[85,000]円ずつ[1年間(12カ 月)]で回収するのに必要な月利を求める。12倍して年利は 3.7%となる。

能 「現在価値 | と 「定期支払額 | は、 「期間 | に応じた 「利率 | を掛 け合わせ続けて「将来価値 | を実現します。RATE関数は、こ の場合の「利率」を求める関数であり、「期間」に対応して決 定されます。

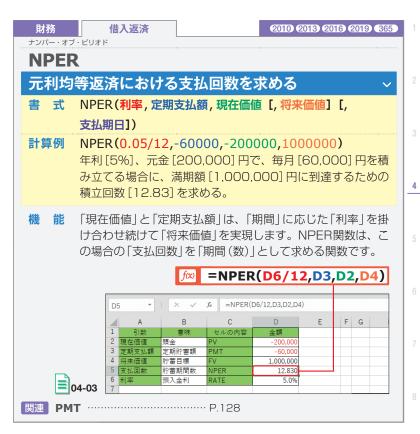
#### 貸付金の金利を求める 使用例

下表は、100万円を貸し付けて1年間で月次返済(85.000円)する場 合の貸付金利を、RATE関数を利用して算出しています。

# $f \approx$ =RATE(D5,D3,D2,D4)\*12

2010 2013 2016 2019 365

De	5 + i	× ✓ fs	=RATE(D	5,D3,D2,D4)*12	!	
4	А	В	С	D	Е	F
1	引数	意味	セルの内容	金額		
2	現在価値	貸付金	PV	-1,000,000		
3	定期支払額	定期回収額	PMT	85,000		
4	将来価値	最終残額	FV	0		
5	支払回数	返済期間数	NPER	12		
6	利率	貸出金利	RATE	3.7%		
7						
8		定期回収額	金利	元金回収	貸出残高	
9	0				-1,000,000	
10	1	85,000	3,060	81,940	-918,060	
11	2	85,000	2,809	82,191	-835,869	
12	3	85,000	2,558		-753,426	
13	4	85,000	2,305		-670,732	
14	5	85,000	2,052	82,948	-587,784	
15	6	85,000	1,798		-504,583	
16	7	85,000	1,544	83,456	-421,126	
17	8	85,000	1,289		-337,415	
18	9	85,000	1,032		-253,447	
19	10	85,000	775	84,225	-169,223	
20	11	85,000	518		-84,741	
21	12	85,000	259	84,741	0	
22						





論理

#### 論理 条件

# **SWITCH**

## 複数のデータを比較検索して一致するかどうか調べる、

書 式 SWITCH(値, 一致する値 1, 結果 1[, 一致する値 2][,

結果 2] ,… [, 一致する値がない場合に返す値])

計算例 SWITCH(所属コード, 所属コード 1, 所属名 1[,

所属コード 2] [, 所属名 2])

「所属コード」が入力されているセルの値を[所属コード]]と 比較し、一致している場合は「所属名1]を表示します。一致 していない場合は、[所属コード2] 以降の比較を行います。

2010 2013 2016 2019 365

**解 説** SWITCH関数は、「値 | で指定した ] つの値と [一致する値] で 指定する複数の値を比較し、最初に一致する値に対応する結 果を返します。いずれにも一致しない場合は、任意指定の既 定値(「一致する値がない場合に返す値」)が返されます。一致 する値および結果は、1から126個まで指定できます。

#### 使用例 入力した所属コードに対応する所属名を表示する

下表では、[所属コード] に入力した所属コードから、それに対応する 所属名を表示させます。存在しない所属コードを入力した場合は「入力 ミス | と表示します。

# =SWICH(B2,1001,"総務部",1002,"営業部",1003,"広報部","入力ミス")

			_						
<b>-</b>	× \( \sqrt{f_x}	=SWITCH	(B2,1 <b>0</b> 0	(B2,1 <mark>0</mark> 01,"総務部",1002,"営業部",1003,"広報部","入力ミス")					
А	В	С	D	E	F	G	Н	1	
	所属コード	所属名							
大澤 直樹	1003	広報部	$\vdash$						
野田 涼花	1001	総務部							
坂田 博一	1003	広報部							
松木 明希	1002	営業部							
吉岡 隼人	1004	入力ミス							
大木 正美	1002	営業部							
夏川 友紀奈	1003	広報部							
高橋 正樹	1004	入力ミス							
小田島 潤	1101	入力ミス							
	A 大澤 直樹 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	A B 所属コード 大澤 直樹 1003 野田 涼花 1001 坂田 博一 1003 松木 明希 1002 古岡 隼人 1004 大木 正美 1002 夏川 友紀奈 1003 高橋 正樹 1004	A B C 所属コード 所属名 大澤 直樹 1003 広報部 野田 涼花 1001 総務部 坂田 博一 1003 広報部 松木 明希 1002 営業部 吉岡 隼人 1004 入力ミス 大木 正美 1002 営業部 夏川 友紀奈 1003 広報部	A B C D 所属コード 所属名	A B C D E M M M M M M M M M M M M M M M M M M	A     B     C     E     F       所属名     広報部       所属名       大大率 直向 年人     1003     広報部       大木 正美     1002     営業部       夏川 友紀奈     1003     広報部       高橋     正樹     1004     入力ミス	A B C C E F G    所属コード 所属名	A B C D E F G H    所属コード   所属名	

■ 05-03

# AND

論理

アンド

## 複数の条件をすべて満たすかどうか調べる

書 式 AND(論理式 1[, 論理式 2] [, 論理式 3,…])

#### 計算例 AND(A1>=10,A1<=20)

条件

「[10] ≤A1≤[20] | という条件を満たす場合は[TRUE]を 返し、そうでない場合は [FALSE] を返す。

2010 2013 2016 2019 365

能 AND関数は、すべての引数が[TRUE]のとき[TRUE]を返し、 1つでも [FALSE] の引数があると [FALSE] を返します。主 にIF関数の[論理式] に組み合わせて使用され、1~255個 の引数が設定できます。

#### 3科目とも70点以上なら合格の判定を行う 使用例

「3つの条件をすべて満たす」場合の論理式の例を示します。IF関数と AND関数を利用して、点数によって表示が変わるようにしています。

論理式: AND(C3>=70.D3>=70.E3>=70)

真の場合 : "合格" 偽の場合 : "不合格"

国語≥ 70 かつ数学≥ 70 かつ英語≥ 70 1/真 合格 不合格

### fix = IF(AND(C3>=70,D3>=70,E3>=70),"合格","不合格")



.....P 158

2010 2013 2016 2019 365

検索/行列 ルックアップ

データ検索 LOOKUP … ベクトル形式

## 1行/1列のセル範囲を検索して対応する値を求める

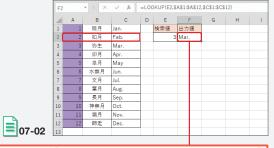
#### 書 式 LOOKUP(検査値,検査範囲,対応範囲)

能 LOOKUP関数では、「ベクトル形式」と「配列形式」の2つが あります (MEMO参照)。ベクトルとは1行あるいは1列から なるセル範囲のことです。

> ベクトル形式のLOOKUP関数では、「検査範囲」から「検査値」 を検索します。その検査値が見つかると、その位置に対応し た [対応範囲] のセルの値を抽出します。

#### 使用例 検索列とデータ列が離れている場合の検索

下表では、検索列を月数に、英語表記をデータ列に設定して、検査値 [3] に対応する英語表記を抽出しています。



2010 2013 2016 2019 365

fxx = LOOKUP(E2,\$A\$1:\$A\$12,\$C\$1:\$C\$12)

#### ルックアップ LOOKUP ··· 配列形式

検索/行列

# **縦横の長い行または列で検索して対応する値を求める** ~

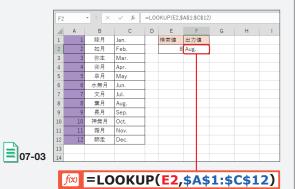
#### 書式 LOOKUP(検査値,配列)

データ検索

**機 能** LOOKUP関数では、「ベクトル形式 | と「配列形式 | の2つが あります (MEMO参照)。配列形式のLOOKUP関数では、縦 横を指定しなくても、「縦横の長いほうの辺の行または列で 検索して、その対辺の行または列にあるデータを表示しま

#### 表の縦横を指定しない検索 使用例

下表では、長いほうの辺、つまりA列のセル範囲 [A1:A12] で検索し、 見つかった値の対辺の英語表記を返します。



#### MEMO | LOOKUP 関数の使い分け

一般的には、HLOOKUP関数やVLOOKUP関数がよく使われますが、2種類の LOOKUP関数にも利点があります。

#### ●ベクトル形式

ベクトル形式のLOOKUP関数では、「検査範囲」から「検査値」を検索し、それ が見つかった位置に対応した [対応範囲] のセルです。

ベクトルとは、1行あるいは1列からなるセル範囲です。ベクトル形式は、 VLOOKUP関数やHLOOKUP関数の行・列の幅をなくした代わりに、「検査値] に整数だけでなく実数が利用できます。また、「対応範囲」を別指定するので、「検 査範囲]より左側の列や上側の行での検索も可能です。

#### ●配列形式

一方、配列形式のLOOKUP関数は、ほかの表計算ソフトとの互換性を維持する ために用意されています。 [配列] の上端行あるいは左端列の長いほう (長さが 縦横同じ場合は先頭列)から「検査値」を検索して、検査値が見つかると、下方 向あるいは右方向の最終セルの値を返します。

#### ●関数の使い分け

LOOKUP関数は、VLOOKUP関数またはHLOOKUP関数で代用できますが、ベ クトル形式には[検査範囲]と[対応範囲]が連続している必要がないこと、配 列形式には縦横の指定がないこと、つまりVLOOKUP関数/HLOOKUP関数の ような使い分けが不要という特徴があります。

186

**SUM** ..... P.2

08-01

**DSUM** 

ディー・サム

#### 条件を満たすレコードの合計を求める

書 式 DSUM(データベース,フィールド,条件)

計算例 DSUM(A2:F14,F2,A16:F17)

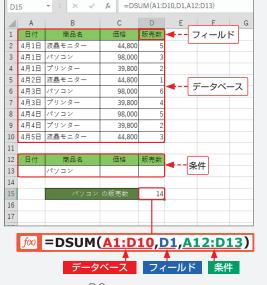
セル範囲 [A2:F14] のデータベースから、セル範囲 [A16: F17]で指定した条件を満たすレコードを検索して、セル [F2] で指定するフィールドの合計を返す。

2010 2013 2016 2019 365

能 DSUM関数は、「データベース」において、「条件」を満たす レコードを検索して、指定された[フィールド]列を合計しま す。

#### 条件に合うデータの売上合計を求める 使用例

下表は、商品の販売一覧です。セル範囲 [A1:D10] のデータベース から、条件に指定された[商品名](パソコン)を満たすレコードを検索 して、該当する [販売数] の合計を求めています。これによって、セル [D15]には「パソコンの販売数」が求められます。



# **DPRODUCT**

データベース

ディー・プロダクト

# 条件を満たすレコードの積を求める

書 式 DPRODUCT(データベース, フィールド, 条件)

計算例 DPRODUCT(A2: C14,C2,A16: A19)

セル範囲 [A2:C]4] のデータベースから、セル範囲 [A]6: A19] の条件に一致するレコードを検索して、セル [C2] で はじまるフィールドの積を返す。

2010 2013 2016 2019 365

能 DPRODUCT関数は、「データベース」において、「条件」を 満たすレコードを検索して、指定された[フィールド]列の積 を求めます。

#### 使用例 商品在庫表から商品名の在庫量を確認する

下表は、商品在庫表のデータベースから、[在庫] フィールドで、条件 で指定した商品名のレコードを検索して、在庫量を確認します。指定 した商品の在庫量をすべて掛け合わせて0にならなければ、いずれも在 庫がOではないことが確認できます。

ここでは、IF関数と組み合わせて、Oになった場合には、"要確認"と表 示されるように設定しています。



文字列結合

# CONCATENATE

### 複数の文字列を結合する

書 式 CONCATENATE(文字列 1[,文字列 2,···])

計算例 CONCATENATE("Desk","Top","Publishing")

文字列 [Desk] [Top] [Publishing] を結合した 「DeskTopPublishing」という文字列を返す。

2010 2013 2016 2019 365

能 CONCATENATE関数は、複数のセルにある文字列を結 合して1つの文字列にまとめます。名簿の名前の後ろに 「様」などを付ける場合に便利です。文字をつなげるには 文字列演算子「& | を使うこともできますが (="Desk" &"Top"&"Publishing")、COUNCATENATE関数で引数 を指定したほうがかんたんです。なお、引数は30個ま で指定できます。

#### 使用例 宛名リストや住所の作成

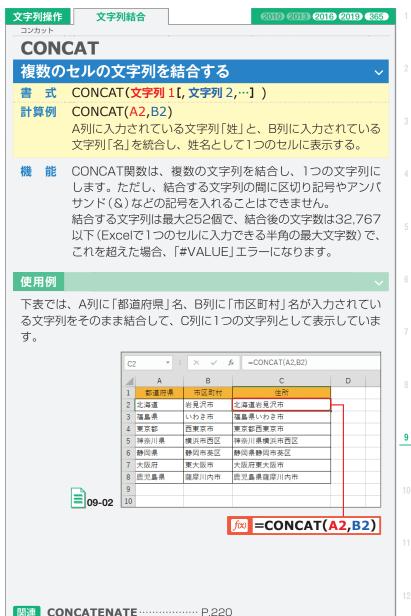
取引先名簿などから、敬称を付けた宛名リストを作成する場合、 CONCATENATE関数でかんたんに作成することができます。また、「都 道府県 | や「市区町村 | などが別々に入力された一覧表から、ひと続きの 住所を作成することもできます。

F2	▼ :	× √ f <sub>x</sub>	=CONCATENA	TE(B2,C2,D2)			
4	А	В	С	D	Ε	F	(
1	氏名	都道府県	市区町村	住所 2	П	住所	
2	浅田 一樹	埼玉県	富士見市	上沢3-3-3		埼玉県富士見市上沢3-3-3	
3	伊東 吾郎	神奈川県	座間市	緑ヶ丘4-5-6		神奈川県座間市緑ヶ丘4-5-6	
4	植松 麻沙美	東京都	港区	青山5-67-8		東京都港区青山5-67-8	
5	江成 日南子	大阪府	岸和田市	磯上町8-9-10		大阪府岸和田市磯上町8-9-10	
6	大竹 泰啓	北海道	函館市	港本通2-1-9		北海道函館市港本通2-1-9	
7	小金沢 咲来	福岡県	博多区	中央本町100-5		福岡県博多区中央本町100-5	
8							

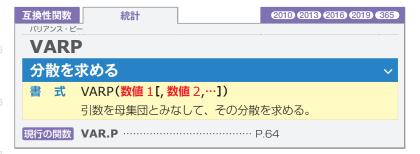
# ■ 09-01

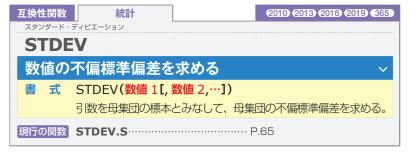
#### MEMO|数式の値への変換

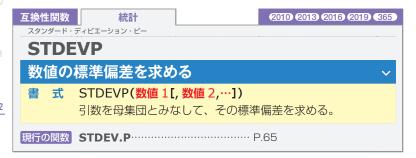
作成した宛名や住所は、コピーして利用するときのために、数式から値 に変換しておきます。数式を値に変換するには、数式が入力されたセル(セ ル範囲)を選択して<コピー>国をクリックし、貼り付けたいセルを選択 して<貼り付け>の下部分間をクリックし、<値>口を選択します。



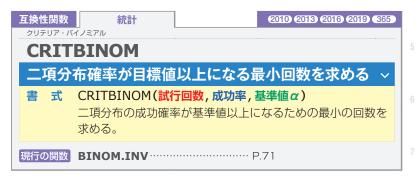
**TEXTJOIN** ..... P.222













# 目的別索引

数字/アルフ	ファベット		~
2 進数の変換	2進数を8進数に変換する	BIN2OCT	249
	2進数を10進数に変換する	BIN2DEC	248
	2進数を16進数に変換する	BIN2HEX	249
8 進数の変換	8進数を2進数に変換する	OCT2BIN	251
	8進数を10進数に変換する	OCT2DEC	252
	8進数を16進数に変換する	OCT2HEX	252
10 進数の変換	10進数を2進数に変換する	DEC2BIN	246
	10進数を8進数に変換する	DEC2OCT	247
	10進数を16進数に変換する	DEC2HEX	247
	10進数をn進数に変換する	BASE	21
	16進数を2進数に変換する	HEX2BIN	250
	16進数を8進数に変換する	HEX2OCT	251
	16進数を10進数に変換する	HEX2DEC	250
F検定	F-A-C の工例ではよみは 7	F.TEST	93
	F検定の両側確率を求める	FTEST	290
F分布		F.INV.RT	93
	F分布の上側確率から確率変数を求める	FINV	290
		F.DIST.RT	92
	F分布の上側確率を求める	FDIST	290
	F分布の確率を求める	F.DIST	91
	F分布の下側確率から確率変数を求める	F.INV	93
n進数の変換	n進数を10進数に変換する	DECIMAL	21
RTD サーバー	RTDサーバーからデータを取り出す	RTD	200
t 検定	LACT OTHER & THE T	T.TEST	90
	t検定の確率を求める	TTEST	289
t 分布		T.DIST	87
	t分布の確率を求める	TDIST	288
	t分布の左側逆関数値を求める	T.INV	89
	t分布の標本から母平均の片側信頼区間の 幅を求める	CONFIDENCE.T	86
	t分布の右側確率を求める	T.DIST.RT	88
	t分布の両側確率を求める	T.DIST.2T	88
		T.INV.2T	89
	t分布の両側逆関数値を求める	TINV	289
Unicode 番号	Unicode番号を調べる	UNICODE	239
	Unicode番号を文字に変換する	UNICHAR	238

URLエンコード	文字列をURL形式にエンコードする	ENCODEURL	277
Web サービス	Webサービスからデータを取得する	WEBSERVICE	278
XML 文書	XML文書から必要な情報を取り出す	FILTERXML	278
z検定		Z.TEST	91
	z検定の上側確率を求める	ZTEST	289

あ行			~
余り	余りを求める	MOD	16
英字	英字を大文字に変換する	UPPER	236
	英字を小文字に変換する	LOWER	237
英単語	英単語の先頭文字を大文字に、以降を 小文字に変換する	PROPER	237
エラー	エラー値のタイプを調べる	ERROR.TYPE	176
	結果がエラー値 [#N/A] の場合は指定 した値を返す	IFNA	166
	対象がエラー値 [#N/A] 以外かどうか 調べる	ISERR	175
	対象がエラー値 [#N/A] かどうか 調べる	ISNA	174
	対象がエラー値かどうか調べる	ISERROR	174
	対象がエラーの場合に指定した値を返す	IFERROR	165
	つねにエラー値 [#N/A] を返す	NA	175
円周率	円周率を求める	PI	25
大文字	英字を大文字に変換する	UPPER	236
	英単語の先頭文字を大文字に、以降を 小文字に変換する	PROPER	237

か行			~
回帰指数	複数の独立変数の回帰指数曲線の係数を 求める	LOGEST	106
	複数の独立変数の回帰指数曲線の予測値 を求める	GROWTH	106
回帰直線	1変数の回帰直線の傾きと切片を求める	INTERCEPT	102
		SLOPE	102
	1変数の回帰直線の標準誤差を求める	STEYX	105
	1変数の回帰直線の予測値を求める	FORECAST	292
		FORECAST.LINEAR	103
	複数の一次独立変数の回帰直線の係数を 求める	LINEST	101
	複数の一次独立変数の回帰直線の予測値 を求める	TREND	101